

子どもの自然環境への意識を高める外遊びワークショップのあり方

～神戸市立森林植物園における実践より～

神戸女子大学 家政学部 家政学科 梶木研究室

宮田 穂乃花

1. 研究の背景と目的

近年、都市化の進展により子どもたちの自然体験が減少し、どれも似た構成の公園や遊具により、子どもの創造性を制限することが懸念されている。そして子どもの自然への関心や理解を低下させ、将来的な環境問題への対応に影響を与える可能性が指摘されている。

神戸市立森林植物園は都市部に位置し、子どもたちの自然体験を提供する重要な施設であるが、遊具の撤去や来園者数の減少が示され、子どもたちの自然への触れ合いが限定的である。これまでの研究では、森林植物園での子ども向け遊びワークショップが子どもの関心を引き、自主的な遊びを促進することが示されているが、屋外での遊びが子どもの自然への意識に与える影響については詳しく調査されていなかった。

本研究の目的は、神戸市立森林植物園で外遊びワークショップを実施し、子どもの緑や自然に対する意識の影響を明らかにし、室内遊びへの依存を減らす施策を検討することである。具体的には、森林植物園の特徴をいかした自然に関する遊びを提案し、屋外読書や屋外での自然体験を奨励することの有効性を検証する。

2. 研究方法

神戸市立森林植物園多目的広場のちびっこ広場において3日間の遊びワークショップを実施した(表1)。内容は、環境保護や緑に対する興味を促進させるために屋外での絵本の読み聞かせや自然との触れ合いを重視し、四季を感じるイベントも取り入れた(表2/表3)。そして、参加した子どもの保護者と学生スタッフにアンケートを実施し、ワークショップによる子どもの緑と自然に対する意識変化について明らかにする。

表1. ワークショップ概要

実施日/天候	2023/10/8/雨	2023/10/22/晴れ	2023/10/29/晴れ	
時間	10:30～12:30	12:30～15:00		
各遊び	①絵本読み聞かせ②自然探索③クラフト体験 ④どんぶり投げ(29日のみ)⑤コスモスイベント(22日のみ)			
参加数	子ども	5人	59人	34人
	学生	13人	16人	71人

表2. 各遊びブースの様子

	①絵本読み聞かせ	②自然探索	③クラフト体験
様子			
遊び方	屋外で自然に関する絵本を使用し、シートに座って絵本を読み聞かせる。	広場内のまつぼっくりや、どんぐりなど、秋を見つける。	自然探索で見つけたどんぐりやまつぼっくりを用いてタペストリーを作成する。
目的	自然や植物に関する絵本や話を通じて、子どもたちに自然の大切さや環境保護の重要性を理解させる。	子どもたちに自然保護への意識や環境への感謝・責任感を育成し、四季や植物への関心や愛着を高める。	子どもたちの緑や自然への愛着を育み、自然との触れ合いが記憶に残る体験となること。
効果	植物の役割や生態系の理解を深め、絵本の物語を通して観察力や想像力を育成。	自然の重要性を理解し環境保護への意識を向上。四季や植物に対する愛着の促進。	思い出に残る体験で自然への関心を刺激。自然とのつながりを大切にする意識の育成。
	④どんぐり投げ	⑤コスモスイベント	
様子			
遊び方	自然探索で見つけたどんぐりを点数が書かれたミニパケツに投げ、得点を競う。	剪定方法を学習し子どもと学生のみで実際に剪定を行いコスモスのミニブーケを作る。メッセージを書いてラッピングをし、プレゼントをするイベント。	
目的	新たな遊び方や考え方を提供し、自然とのつながりや遊びの多様性を体験させる。	植物に関する知識を深め、季節感を理解させる。自然への愛着や感謝の気持ちを培い、感性や思考に影響を与えること。保護者と分離することで主体的に取り組む。	
効果	どんぐりを通じて自然一部としての親しみをもち、環境への意識を高めること。	剪定を通して植物の知識を得ると同時に、子どもたちに季節感や感謝の気持ちを育み、自然との関わりを深める。子どもが主体的に取り組むことで自立心を育成。	

表3. 利用した絵本の概要

対象年齢	3歳～	3歳～	3歳～
内容と特徴	植物の成長の様子/創造性/探求心	自然と人間の共生/個性/思いやり	自然と人間の共生/四季の移り変わり
絵本			
対象年齢	5歳～	3歳～	5歳～
内容と特徴	植物の成長の様子	参加型手本/植物の成長の	自然保護
絵本			
その他の絵本	ざっそう	いつかどんぐりの木が	老父の小さな庭

3. アンケート調査結果と考察

3-1. 保護者対象アンケート調査の結果

【自然に関わる遊びが子どもにもたらす効果】

絵本や自然探索の遊びを通じて、子どもが緑や自然に対する興味を持ったかどうかたずねたところ、「はい」が78%、「いいえ」が22%であり（図1）、子どもが緑や自然に関する知識や理解が向上したと感じたかどうかは、「はい」が75%、「いいえ」が25%であった（図2）。絵本や自然探索の遊びを重ねると、子どもにどのように変化が現れると思うかについては、図3の結果となり、行動力や冒険心が向上し、活発になる様子が明らかになった。

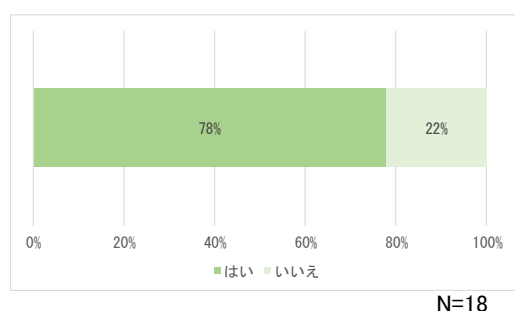


図1. 緑や自然に対する興味を持ったか

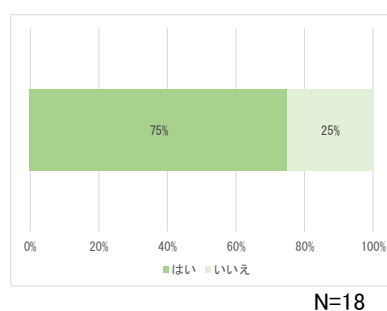


図2. 緑や自然に関する知識や理解が向上したか

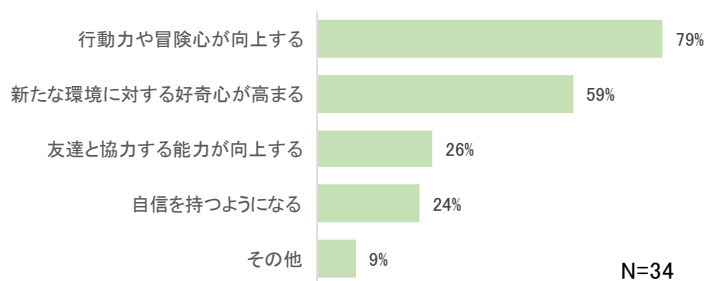
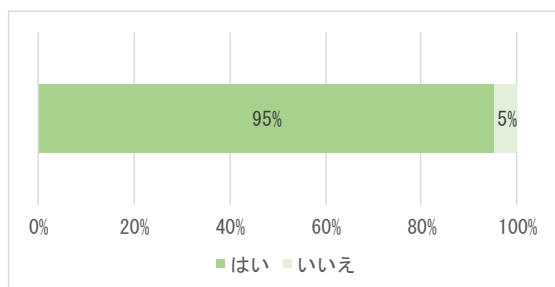


図3. 絵本・自然探索遊びによる子どもの変化

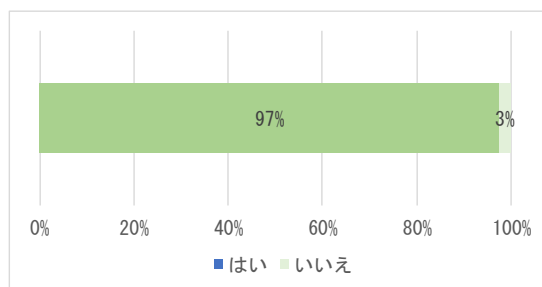
【保護者の今後の取り組み意識】

絵本や自然探索の遊びを通じて、今後、子どもが自分の生活の中に自然と触れ合う機会を積極的に取り入れるようになりそうかをたずねたところ、「はい」が95%、「いいえ」が5%で（図4）、その具体的な内容は表4の通りである。これにより、保護者は子どもと自然に関わる機会が増えていくことがわかる。今後保護者が子どもと一緒に、緑や自然に関連する取り組みをするかどうかをたずねたところ「はい」が97%、「いいえ」が3%で（図5）、具体的な内容は図6の通り、キャンプとハイキングの意見が多かった。本ワークショップは、子どもの緑や自然への関心の向上、保護者の意識向上の面で効果があった

といえる。



N=22



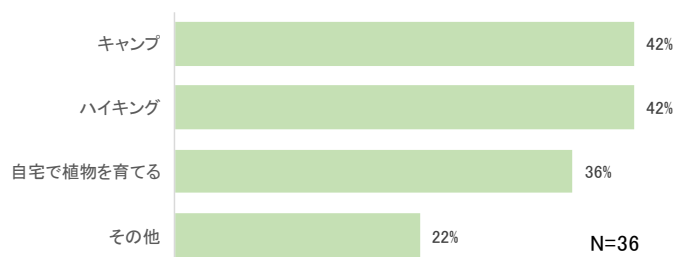
N=39

図4. 今後子どもが積極的に自然と触れ合う機会を取り入れそうか

図5. 後保護者が子どもと一緒に、緑や自然に関連する取り組みをするか

表4. 保護者の今後の具体的な取り組み

どんぐりや虫を通学中に探すことができるようになる	虫が怖いようなので、好きになるようになる
草花に触れ合う機会が増えそう	虫取り
公園に遊びに行く	公園へ散歩
住まいが都会なのででかける	山へ行く
外へ行く	木の実ひろいなど
どんぐりなげ。小石を集め	外で見ないものを絵本で復習する
成長に合わせて絵本など	自分で工夫して遊ぶ
もともと公園やアスレチックなどが好きなので、今後もたくさんつれて行きたい	春や秋など外遊びに適した季節に、その季節を感じる遊びをさせたい



N=36

図6. 今後子どもが積極的に自然と触れ合う具体的な活動内容

3-2. 学生対象アンケート調査の結果

学生アンケート結果によると、絵本の読み聞かせでは、初めは集客が少なかったが、絵本の種類によって子どもたちの反応が異なり、絵本を通じて自然や植物に関する話を楽しむ姿が見られた。しかし、参加者が少ないと参加しにくい雰囲気があり、声をかけたり読み方に工夫が求められた。自然探索・クラフト体験では、タペストリー作りやどんぐり拾いが好評で、子どもたちは植物に関する知識を積極的に習得し、保護者も協力して参加し

ていた。コスモスイベントでは、季節や自然ならではのイベントに興味を示していた。剪定やラッピングにも熱心に取り組み、子どもたちの主体的な行動が促された。花束を通じて感謝の気持ちを伝えたり、親子が別行動をすることで自立心が芽生えるなど、体験を通して良い影響がみられた。学生スタッフも子どもたちとの交流や体験を通じて自然に関する学びを得られ、学生同士の交流も深まり、ワークショップの運営に対する好評価を得た。総合的に、本ワークショップは子どもたちや学生にとって有益で楽しいものとなり、学びと交流が深まったといえる。



学生スタッフの様子

4. まとめ

本研究では、神戸市立森林植物園のちびっこ広場で実施された子ども向け遊びワークショップに焦点を当て、2019年度～2022年度の梶木研究室の研究成果を生かして行った。このワークショップでは、緑や自然に関する特色をいかし、屋外での絵本の読み聞かせ、自然探索、クラフト体験、季節のイベントなどを行い、森林植物園ならではの遊びを提供した。その後、参加した保護者や学生に対してアンケート調査を行い、本ワークショップが子どもたちに与える影響を明らかにした。アンケート結果から得られた5つの成果を以下に示す。

- ①身体的な体験：自然での遊びを通じて子どもたちは身体的に自然の楽しさや素晴らしさを理解することができた。
- ②感覚の刺激：緑や自然に触れることで五感が刺激され、子どもたちは自然と関わる感覚を体験することができた。
- ③知識の獲得：絵本を通して植物や自然環境に関する知識を学び、興味を持つことができた。
- ④自発的な学び：自然環境での遊びは子どもたちの自発性や探求心を培うことができた。
- ⑤感情的な経験：自然環境での遊びは子どもの感情面に訴えかけ、子どもたちは喜びや感謝、思いやりの気持ちを育むことができた。

これらの成果から、本ワークショップは子どもたちが屋外遊びを積極的に行うことにつながり、保護者の関心も今後の家庭での自然関連活動に対して高まったことが明らかになった。そして、子どもたちの自然への関心は、自発的に自然体験や季節感を楽しむ姿勢に結びつき、これが家庭での屋外活動を促進する可能性が示唆された。

今後は子どもたちが身近なエリアで自然体験を行う取り組みを、より促進することが望まれる。自治体やNPOが子どもたちに自然へのアクセスを提供し、屋外での活動を奨励することで、子どもたちの緑や自然への関心を養うことができる。これが将来的に環境保護や持続可能な未来への貢献に繋がり、より良い社会の形成やまちづくりに寄与することが期待される。

1) 参考資料



掲示したポスター



「コスモスのミニブーケ作り」ポスター

[謝辞]

本研究は、多くのかたのご協力により無事に終わることができました。ワークショップに参加し、アンケートにご回答くださった方々にも感謝いたします。研究にご協力いただいた神戸市立森林植物の金森園長、本位田副園長、稲葉様、並びに職員の皆様、ご助力いただきありがとうございます。

なお、公益財団法人神戸市公園緑化協会の「神戸市の緑の普及・啓発に寄与する調査・研究支援」による助成により実施しました。心より御礼申し上げます。

また、ご多忙のなかワークショップの準備から論文作成にあたり、多くの指導をくださった梶木典子先生、本当にありがとうございました。梶木ゼミの皆様にはワークショップの準備や当日のサポートにご協力いただきありがとうございました。

本研究を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。